

30 備中国大井村鍛冶山城主外伝

東山内掛畑口橋東詰めの福谷八十八ヶ所第五十四番札所に、廻國人供養塔と並ぶ石造地蔵の台座に「切分地蔵尊 右大せん道 明治三年八月日 願主大井村 大森次路右衛門」とあります。



伝大森盛清の墓と汗をかく千手観音

この大森次路右衛門の名は、大井字大森にあった稻荷神社へ地覆石を寄進した、大森中村中（大森、中村に住む者）6名の中にも見えます。江戸時代末から明治初年に大井村に確かに存在した人物です。

話しは変わりますが、延元元年（1336）楠木正成が敗死した、湊川の戦いに功のあった足利方の大森次郎左衛門盛清が、鍛冶山城を築いたと記す史料もあります。

（日本城郭体系）

一説に、この盛清の墓が字大森の大師堂にあり、子孫は足守藩木下家に仕え、御船姓に改めたと言います。

実際、この御船家の墓所には格別の家にしかないと言われる亀趺様式の墓塔があります。

文化11年（1814）の建立です。

この墓の主の御船家は、今は香川県にあって地元との関係は薄らいでいるようです。明治3年に石造地蔵を建立した大森さんとの関係あるのでしょうか。

また、鍛冶山西麓の巖尾山満願寺跡近くに、江戸期の大森氏と判別できる無縁仏（福武家の墓塔と混在？）があります。これは、御船に改姓する前の大森氏時代のものなのでしょうか。

話し変わって、康正2年（1456）の「造内裏段銭並国役引付帳」に

「六貫六百七十五文 五月廿日

六月一日定 高喜久鶴殿 備中国大井村段銭」という記録が有ります。（備中誌）

つまり、高喜久鶴（高師貞？）に対して御所造営費用と大井村の租税の上納を命じるものです。

これにより、室町幕府奉公衆の高氏が大井村を所領としていたことがわかります。

同じ奉公衆の備前松田氏が文明12年（1480）に金川へ城を築いており、高氏が鍛冶山城を築いたという考え方はできないのでしょうか。築城は、大森氏とは100年後のこととなります。

岡山市教育委員会の調査によれば、城の縄張りは南北に延びる鍛冶山の尾根上に20を超える郭、堀切、堅堀を施し、本丸跡には石垣も認められ、足守近辺では最も大規模な城郭とされています。

現地は、深茂側の谷は急傾斜の斜面に小幅な段取



亀趺様式の墓



岡山県の歴史：ぎょうせい社刊

主な近習・奉公衆の分布 ()内は居住地か、与えられた所領



岡山市教育委員会資料

りがある程度で郭があるようには見えません。

大井側は、本丸から三の丸にかけて3段にも4段にも山腹を切って雛段様に郭を張り出しており、どうやらこちらが大手曲輪の模様。西国の足利対抗勢力の押さえとも考えられる。とは、岡山市教委の調査報告です。

ともかく、鍛冶山城を築いた最初のお殿様は、はつきりしませんが、戦国時代から後の城主の変遷は窺い知ることができます。

その最初は、備前国宇喜多氏の戦国大名としての成長に伴うもので、弘治元年（1555）宇喜多氏の家臣、延原（信原とも）土佐守喜光です。

弘治3年、喜光は足守（現在の岡・余町あたり）へ菩提寺とする日蓮宗の東光寺を、続く永禄元年（1558）

には祈願所の乗典寺を創建します。この地を永住地と定めたのでしょうか。

しかしその願いは空しく、天下の覇権を争う東の織田勢と西の毛利勢の狭間にある備前・備中の雲行きは怪しくなります。毛利家への臣従の誘いを断った土佐守は、天正3年（1575）毛利の家臣福武新介に城を攻め落とされ、宇喜多直家の沼城へ退散。これにより鍛冶山城は毛利氏のものとなり、福武氏が城主を務めます。それから8年有余、天正11年（1583）に入ると、鳥取城を攻略し、備中に転進してきた羽柴秀吉により、3月には鍛冶山城、4月には冠山城、5月には宮路山城と次々と攻略され、6月には、ついに備中高松城が落城します。清水宗治の自刃により東西の講和が成り、高梁川を挟み、東側が織田領、西側は毛利領となります。これにより、鍛冶山城は再度延原氏の居すところとなり、土佐守の嫡男延原内蔵允が城主となります。（平成27年7月足守公民館講座資料）



鍛冶山城から陣屋町を望む



伝土佐守の墓

鍛冶山城は再度延原氏の居すところとなり、土佐守の嫡男延原内蔵允が城主となります。（平成27年7月足守公民館講座資料）

しかし、慶長5年（1600）の関ヶ原の合戦において豊臣方宇喜多家は滅亡します。当時の鍛冶山城の様子を備中誌は次のとおり記しています。

「関ヶ原の役に趣き味方敗亡により信原の家も滅びぬ。此の城には彼が妻子従類残り居けるが関ヶ原軍破れてと聞よりちりちりに成て備前の方へ落忍ぶと也。一説、此子孫延原に改めて今岡山に住すと云」以後、鍛冶山城は主を迎えることなく廃城となったのでしょうか。

昭和17年、旧赤磐郡熊山町小瀬木にある春日神社。ここに金重陶陽作る備前焼の狛犬一对が奉納されました。奉納者は、なんと延原土佐としてあります。



春日社の狛犬

物語的には、鍛冶山城主延原氏の末流であってほしいところですね。

小瀬木の延原氏にお尋ねしたところ、御先祖は備前市とのお話でした。備前の戦国大名浦上氏の家臣だったのではないのでしょうか。浦上滅亡後、宇喜多の家臣となることもありですね。

浦上氏の本拠、旧和気郡佐伯町の天神山城の北に延原という地があります。